

「スポーツを通して、相手を思いやる気持ちを育て、子どもたち同士の仲を深めたい。」

バドミントン

私の地元の福島県飯館村で、長い間バドミントン教室を開いている講師をザンビアに招待しました。震災以降もスポーツを通して村の人たちを元気づける活動をしています。また、アフリカで教育の支援活動をしている友人も招待しました。

今回は、私が普段関わっている子どもたちと一緒に遊びましたが、みんなバドミントンは初めてだったので、風船バドミントンやシャトルキャッチなどの簡単なゲームを行いました。

ちなみに…校長先生は、学生の頃、バドミントンの大会でたくさんの賞をとっていた選手でした。バドミントン教室を大歓迎してくれました。



ラグビー

今や日本で人気のラグビー。同じ町に住む元ラグビー部だった隊員を招待し、教室を開きました。南アフリカのラグビーは有名なので、何人かの子どもたちは知っていましたが、バドミントン同様やったことはありません。1年生から7年生まで、男女関係なく楽しめる簡単なパスゲームで、一緒に楽しむことができました。友人が話す『No Side (互いに健闘をたたえよう)』『ONE for ALL ALL for ONE (ひとりとはみんなのために みんなは勝利のために)』というラグビー精神が、とても印象的で好きになりました。こうして隊員仲間と協力した活動も進めています。



発行：JICA 海外協力隊 大澤 明浩

2018年7月～2020年7月 チャールズルワンガ初等学校/モンゼ/ザンビア共和国

次回は『教育分科会』を紹介します。